

中世

第5章 院政と武士の躍進 2. 院政と平氏政権 (1) 院政期の文化

さんぶつじ なげいれどう  
**三仏寺投入堂 — 鳥取県の国宝 —**



三仏寺投入堂(©鳥取県)

解説

■平安時代に建てられた投入堂

鳥取県中部の三朝町にある三仏寺は、標高900mの三徳山に境内を持つ山岳寺院で、706(慶雲3)年に山岳修行者である役小角が開いたと言われている。

その奥院である投入堂は、蔵王権現を本尊とする平安時代後期の建造物で、国宝に指定されている。標高500m、垂直に切り立った絶壁の窪みに建てられた他に類を見ない建築物で、その建立方法は謎に包まれており、一説には役小角が法力で建物ごと平地から投げ入れたと伝えられている。「六根清浄と六感治癒の地～日本一危ない国宝鑑賞と世界屈指のラドン泉～」として、日本遺産第1号にも選ばれている。

**【知っておこう！】**  
鳥取県内では3件の文化財が国宝に指定されている。いずれも平安時代。

名称	時代	所在地
三仏寺投入堂	平安後期	三朝町
伯耆一宮経塚出土品	1103年	湯梨浜町
豊乗寺絹本着色普賢菩薩像	平安後期	智頭町

■古代の鳥取県の山岳信仰の聖地—大山寺・船上山

- 大山寺…718(養老2)年に金蓮上人によって開かれたと伝える
- 船上山…和銅年間に智積上人が智積寺として開基したと伝える



大山寺阿弥陀堂(大山町)  
(国重要文化財)



船上山(琴浦町)(©鳥取県)

(担当：岡村吉彦)

参考資料

・鳥取県『新鳥取県史資料編 古代中世2 古記録編』(2017年)